

令和6年第9回津市教育委員会会議録

日時：令和6年8月26日（月）

午後1時開会

場所：教育委員会室

出席委員	委	員	西	口	晶	子
	委	員	富	田	昌	平
	委	員	田	村		学
	委	員	山	口	友	美

出席者	教育長	森	昌	彦	
	学校教育部長	伊	藤	雅	子
	教育研究・情報教育担当副参事	山	下	尊	仁
	教育研究支援課担当主幹	駒	田	健	志
	教育研究支援課担当副主幹	本	多	史	明

教育長 令和6年度第9回教育委員会を開催いたします。本日も前回に続きまして、議案第36号の審議をいたします。それでは、数学から今日はスタートということですので、事務局が選定案等を既に配っていますので、選定案について始めたいと思います。お願いします。

【数学】

教育長 それでは、採択候補の報告をお願いします。

調査員代表 それでは、選定案に従って選定理由を説明いたします。7者の教科書見本本について調査いたしました。その結果、啓林館の「未来へひろがる数学」が最も適切な教科書であると判断をしました。その理由を御説明いたします。なお、説明の途中で具体的な教科書のページをお示しして見ていただくということなのですが、啓林館の3年生の教科書をお手元に御準備いただけますでしょうか。調査をするにあたって、全ての調査項目で、様式1にあるように調査をさせていただいたのですが、選定にあたっては、項目の中でも特に重点を置いたところとして、数学的な見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫というものと、もう1つはICTを活用した学習活

動の充実、そして、個別最適な学習に向けた工夫がなされているかどうかというところの、3点を特に重視をしました。まず1点目の数学的な見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫についてですが、啓林館は数学的な見方・考え方を問題発見、問題解決の、2つのカテゴリーに区別して、はっきりと明示しております。そして下線で、教科書の記述と、具体的な内容ですね、対応させていますので、抽象化された見方・考え方と、学習する具体的な内容との関係が把握しやすい構成になっています。3年生の啓林館16ページ中段を御覧ください。これは式の展開の単元ですけれども、この展開においてですね、中段で緑のアンダーラインが引かれたところがあります。 C プラス D を1つのものとして、これを M とすると。これに対応して、緑色の網かけで、右の方ですね、既に学んだ形にするという見方・考え方が示されています。こういった見方・考え方は、この単元内でも、例えば21ページの中段、例題2のところですね、同じくアンダーラインを引いて、共通の部分を1つの文字に置き換えて考える、既に学んだ形にするというふうな見方・考え方。そして、因数分解の単元、28ページ中段です。因数分解の応用的なものですけれども、ここにも式の中の共通な文字を1つの文字に置き換えてということで、既に学んだ形にする、繰り返し示されています。見方・考え方は抽象的であるため、教科書の本文中で具体例とともに繰り返し学ばないと身につけません。その点の配慮が啓林館はなされています。また、考えたことを発信したり、他者とともに理解を深めたりする場面が、啓林館は説明しよう、話し合おう、まとめようと。ここもはっきりと明示されているため、対話的な場面を設ける際の目安となります。同じく3年生の29ページ上段を見ていただけますでしょうか。29ページの上段には、話し合おうという旗、フラッグが立っています。少しめくって32ページの上段には、説明しようというフラッグが立っています。こういったフラッグが必要な場面に設けられていますので、これに従って、対話的な場面とか、アウトプットする場面があります。この場面に沿って取り組むだけでもかなり理解を深めたり、表現力を高めたりすることができます。とりわけ経験の浅い教員には有効なのではないのかというふうに考えています。さらに、各章・節の導入、「学習のとびら」では、身の回りの題材を取り上げて、場面理解を促すデジタルコンテンツ等、言語活動のコーナーを配置して、子どもたちが興味関心を持って学習に向かうことにできるようにしています。3年生の81ページを御覧ください。2次方程式の利用・応用のところなのですが、代表的な題材である、畑があってそこに水をやるための通路を十字に設けるのですが、どれだけの幅の通路を設けるのかという問題です。右上に二次元コードを配置してあります。それを読み取ると、生徒がそのタブレット上で、道幅を自由に設定したり、作った道を動かしたりということで、課題や学習場面の理解が促されます。また、この「学習の

とびら」の所には、同時に話し合おうが左下にあります。ページをめくると 83 ページ。同じ題材で、この道幅を求めるときは最後、道を寄せて方程式を立てると非常に解きやすいというところで、それについて 83 ページの右下の説明しよう、こういったフラッグがあって学習を促すようにしています。他の発行者においても、見方・考え方を働かせる場面をいろんなキャラクターとか、登場人物の対話で示して、そして、深い学びのページというので、深める課題を設けて、力の定着を図ったり、思考力や表現力を育む活用の問題を章末に配置したりすることで、主体的・対話的で深い学びを促しているものもありますが、やはり授業の中で働かせた見方・考え方が自然な流れで繰り返されている啓林館が良いと判断しました。続きまして、2 番の ICT を活用した学習活動の充実と個別最適な学習に向けての工夫ということですが、啓林館の二次元コードは質、量ともに充実しております。大部分のページに配置されています。3 年間、3 学年合計は 1384 個と、東京書籍に次いで多い。そして、教科書に記載されている全ての例、例題、章末問題をこのあと具体的に御説明をします。章末問題は、2 種類あるのですが、学びを身につけよう、そして巻末の問題に解説動画があります。そして、単元の中に設けられている補充問題とか、章末問題の基本の問題、学びを確かめようでも、これは動画ではないんですけど、解説がしっかりとあります。個別最適な学習に生徒が活用しやすいと思います。他の発行者においても、啓林館よりも東京書籍は 1752 個と、二次元コードが多く、動画による理解促進や関心・意欲を高める工夫がなされているものがあります。しかし、先ほど説明させていただいた例題とか、問題の解説動画がこれだけ充実しているのは、啓林館のみです。タブレット端末でこの動画を活用すれば、授業での一斉の答え合わせの時間が削減されるだけでなく、学習内容をもう一度、学校や、あるいは家庭での学び直しをするなど、自らの学習状況に応じての調整がしやすくなりますし、うまく調整ができるという手応えがあれば、粘り強く取り組むことにもつながるかなと考えています。また、不登校生徒等は、自宅とか、登校して別室で学ぶ際の手助けにもなる。こういったことから、啓林館がよいと考えます。その他のところで、啓林館は補充問題やまとめの問題も非常に充実しています。難易度も比較的やさしいものから入試問題のような、やや難しいものまで十分に記載されていますので、ワークブックといった副読本を購入せずとも、教科書を中心に学習して、必要に応じて教員からの、さらなるプリントとか、津市教育委員会から提供されている「みんなの学習クラブ」を活用すれば、十分な練習量が確保できると思います。具体的にその解説動画とか問題の充実さというものを今から少し説明をさせていただきます。二次方程式の単元で具体的に説明させていただきます。3 年生の 78 ページを御覧ください。78 ページの中段に問 3 というのがあります。二次方程式を解きなさいと。この真横に紫色の補充問

題が記載されています。今までこれは巻末に配置されていた問題です。これを、より一層活用を促すために問いの真横に置きました。具体的には、どう使うかというと、タブレットで問題を表示してそれを見ながらノートに解いていきます。解いていて分からなくなったら、その、問3の補充問題ですので、問3を解くための、基礎的な流れというのが、例3で示されています。その例3とか、あるいはタブレットによる、補充問題の解説を参考にしていきます。得意な子は問3でやった後、時間が余るので、直後に補充問題に着手したり、苦手な方は自宅で家庭学習として復習で活用したりすることができます。そして、79ページ右側の下に練習問題、定着を図る反復練習、そして88ページ、少し飛びますが、章末問題です。2種類あると言いました。どちらかというと基礎的な学びを確かめよう、2ページ分。そして、めくっていただくと、学びを身につけようが90ページから91ページ、章末問題、そして91ページの右上には、二次元コードで、解説動画と書いてあります。この学びを身につけようの、やや難しい問題で、全て動画で解説がなされています。それに加えて、巻末230ページ、231ページには、まとめの問題としてやや難しい問題、右下には入試問題にチャレンジとして、青森県2002年度の改題があります。そして、学んだことを活用するということを主眼に置いた2次方程式でしたら、246、267ページ、日常の課題、牛乳パックの問題ですけれども、これに取り組むことで、活用する力を育むというものです。これらの二次元コードによる解説や解説動画がありますので、平易なものから、やや難しい問題、活用する問題まで充分掲載されていますので、練習量もこの教科書で確保できると思います。以上の点から総合的に判断すると、啓林館が最もふさわしい教科書であると考えております。以上です。

教育長 ただいまの報告について、御質問や御意見はありますか。

西口委員 すごく鮮明で、啓林館でと納得してしまったのですけれども。その、啓林館以外で、ここの出版者を特に啓林館と比較して調査したというような、つまり、これがよかったのだというような、そして、決め手が啓林館にあったというような理由はありますか。

調査員代表 はい。啓林館の次に来るのが東京書籍でございます。いずれも分かりやすいということと、デジタルコンテンツも充実しています。どちらかなと思うのですけれども、東京書籍の方はですね、少し文字の大きさが大きくて、ちょっと圧迫感があるというふうな印象はあります。決定的なところというのはデジタルコンテンツの数の違い、これ、シミュレーションの動画の数が若干多いのですけれども、それよりもやっぱり数学で今後一番大事な汎用的な力として数

学的な見方・考え方を子どもたちに育む資質・能力として、これが一番大事です。それを授業の中で自然に育めるのは、啓林館かなと。そこが決定的な理由です。

山口委員 はい。話し合おうのところ、本当にいいなと思います。これをどういうふうに活用するかという点、使う・使わないということも含めてどうですか。

調査員代表 特に若年層、経験の浅い教員がかなりいますので、その時にどういう場面で対話的な活動をさせたらいいのかというふうなところの参考になるのかなと。必ずしもこれを実施しなくても、こういった教科書は、趣旨で配置をして、子どもたちの対話を促そうとするような教科書の考えを知った上で、そして、自分でアレンジするというのはありかなと思っています。非常に参考になるかなと。これだけ、やはり明示をしてあるというのは良いかなと思います。

富田委員 啓林館の教科書は現在使っていると思いますけれども、現在と今回とで、教科書を比べると具体的にどういうところが違うのですか。

調査員代表 そうですね。解説動画が充実したというのがあるのですが、もう1つはですね、先ほどの説明の中でもあったように、補充問題というのは、今までは巻末にあったのですが、なかなかこの活用というのは、私も現場で教員をやっている時に、授業中に活用はなかなかしきれてなかったのですが、今回の啓林館では、問いの真横に設問がありますので、できる子はすぐにやる、苦手な方は自宅でというふうな形で、それぞれの子どもの学習状況に応じて、習熟を図るための工夫がなされているというのが1つ、改善されたところということと、あと、もう1つは、見方・考え方がしっかりと明示をされて、教科書の具体的な記述と、きちんと対応させたので、非常にイメージもわくのではないかと。汎用的な力を育む一助となるのではないかと考えております。

富田委員 ありがとうございます。巻末にまとめられているというのは、前回の時にも話題となっていたのですね。現場でも巻末にあると使いにくいということですね。

調査員代表 啓林館からは、そういった現場の声を拾って改善したというふうなことは、聞きました。

教育長 よろしいですか。それでは、調査員代表、ありがとうございました。

教育長 では、教科書採択について御意見を申し上げます。これ以外を選んでいくところがありますか。

西口委員 啓林館ですかね。数研を選んでいくところもありますね。

田村委員 啓林館がよいと思うけれど。

教育長 特にないですか。

委員 はい。

教育長 御意見は無いようですので、それでは、啓林館の「未来へひろがる数学」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員 はい。

教育長 それでは、津市教育委員会として、啓林館の「未来へひろがる数学」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定します。

【書写】

教育長 それでは、書写の採択候補の報告をお願いします。

調査員代表 書写は、4者の教科書見本本を調査いたしました。学習指導要領の趣旨に沿いますと、光村図書の「中学書写 一・二・三年」が令和7年度の教科書にふさわしいのではないかという評価になりました。その主な理由について、3つのポイントに絞って御説明させていただきます。選定案2を御覧ください。2番の項目なのですが、ロイロノートに近い形式であるということを書かせていただきました。教科書の117ページです。そこに画面がありますが、それが、学校で使っているロイロノートに近いような形で載っていきまして、字形ですとか、バランスですとかをロイロノートで確認できるという、他者には見られない、この会社だけの特徴ではないかということで、これを取り上げました。それに伴いまして、隣のページなんです、116ページです。タッチペンでのサインもこの光村図書の特徴といえるのですが、今の時代に合わせたような内容になっております。続いて、選定案の3の項に取り上げたのですが、「全国文字マップ」です。教科書で言いますと90ページになります。このように日本地図で各地の地名が取り上げられるのはどの教科書

でも見られる内容なのですが、その土地に合わせた字形というものを取り上げているのは光村図書だけの特徴で、その場所、観光名所等に合わせた字形であるとか、美術科にも通じるような、教科横断的とも言えるような課題となっています。最後に3つ目のポイントなのですが、選定案で言いましたら、5番目の項なのですが、別冊「書写ブック」です。巻頭についております、取り外し可能になっている「書写ブック」なのですが、このような取り外し形式の別冊になっているのは、この会社独自のもので、中を見ますと、書き込み式になっています。3年間で系統立てて、ここに課題として載っているのですが、これがあれば、副教材を買う必要がないような、十分な量がここに載っておりまして。よく書写はこのような形の副教材を買うことがあるのですが、これがあれば、購入する必要が無いような、充実した内容になっているなということです。中には、最後のページ、27ページになるかと思うのですが、年賀はがきの実物がついているのですが、切り取って切手を貼ったらそのまま出せるというもので。年賀はがき形式の練習は他者でも見られるのですが、実際に切り取って出せるという、授業中にこれを使って出すこともできますし、このようなことができることがこの光村図書の特徴で。成果というものを引き出せるような課題となっていると感じます。以上のようなことを合わせまして、光村図書を選定いたしました。以上です。

教育長 はい。ありがとうございました。ただいまの報告について、御質問や御意見はありますか。

富田委員 最初にICTを活用したということで、116、117ページで説明されたのですが、こういうタッチペンで書くというような練習というのは、現在、中学校でかなり行われているのでしょうか。

調査員代表 かなりでは、ないです。タッチペンが生徒の手元に来たのが去年で。全員のものが揃うのに時間がかかったものですから、昨年から全校的に取り組んでいるものとなります。

富田委員 今後は積極的にということですか。

調査員代表 そうですね、各授業で使うものですので。それに、書写も合わせて学習をしています。

富田委員 タッチペンを使うのと、普通のペンを使うのとでは、だいぶ感触が違うと思うのですが、それはどれぐらい効果があるといえますか、タッチペン

での上達が、実際に紙に書く上でも効果があるという話なのですかね。

調査員代表 紙媒体での字形とはまた別物だと捉えています。紙では割と整った字が書ける子でも、タッチペンではなかなか上手に書くことが難しいのです。独特のものなので。ですが、これからの社会ではタッチペンでの署名という機会が増えてきますので、タッチペンで字形と整えた書き方というのは、別の学習として、紙に書くこととは別に身に着けたい力かなというふうに捉えています。

富田委員 これが主流になるというよりかは、ある意味、補足的な扱いということですか。

調査員代表 はい。

山口委員 3年間でどれぐらいの時間数で使用する予定でいらっしゃいますか。

調査員代表 1・2年生は年間20時間程度です。3年生は年間10時間程度です。

山口委員 全部を確実というわけではなく、選択しながら基本になるところを。

調査員代表 そうですね。同じような課題が並んでいると思うのですが、例えば行書でしたら、行書のお手本が2つですとか、どちらかを選択する形で学習することが多いです。

山口委員 全部を完璧にというのは、この時間数では難しいですね。

調査員代表 はい。

田村委員 1つだけ。調査結果の一覧表を見せていただくと、提案されている光村図書が一番高評価になっていると思い、次いでというのは教育出版なのかなと思います。項目によっては教育出版の方が、二重丸がついてよい評価になっているものも、唯一というか、あるのですが、それらはおいておいても、光村図書が使いやすいし、良いということですかね。

調査員代表 1つは、光村図書は欠点がないということ、もう1つは、やはり別冊の「書写ブック」が大きいと思います。これがあれば副教材は買わなくてもいい

いのです。

山口委員 文字を書くことが少なくなって、打ち込むということが多くなった世の中なのですが、社会に出てからも文字を書くことはあるので。「字はこう書こうね。」と学ぶことは大事なことだと思います。このような文字が書けたら役立つと思いますので。ありがとうございました。

西口委員 ありがとうございました。1・2年生が年間20時間、それぞれの学年でやられていると聞いて、まずびっくりしました。書写がそんなに行っているという実感が、周りの中学生を見ていて、しなかったものですから、へえ、そうなのかという印象ですけれども。本当に、中学生になって、いきなり、行書になり、楷書から行書に移るところがすごく難しくて、よくこれをこれだけの短い時間で行うのだなと思っていたのですが、20時間あるのだったら何とかかなるかと思いながら、今も考えていたのですが、1つですね。東京書籍の様式1の方かな、書写テストが各学年の最後にあるというのもちょっとびっくりしたのですけれども。書写自体が評価をしていく欄が、通知表にあったのですね。

調査員代表 書写としてはないです。

西口委員 国語ですよ。

調査員代表 そうですね。入試問題で扱われるとか、行書の部首についてですか出題されるので、それもあって、そのようなページが増えてきたのかなというふうに思います。

教育長 いいですか。

委員 はい。

教育長 では、調査員代表、ありがとうございました。

教育長 では、教科書採択について御意見をお願いします。

西口委員 書写、書道は1つのブームですものね。高校の書道部とか。好きな子はとても好きだと思うのですよね。

山口委員 ただ、ここでしか学ばないという子もいるでしょうね、行書というところ。

西口委員 そうなんですよね。小学校も週1時間ぐらいですよね。

田村委員 私たちの年代でも、最近、手で文字を書く機会もないので、ふっと書き方が出てこない時がありますよね。タブレットの署名は増えましたね。

西口委員 指でタブレットに書くことも増えましたね。

教育長 よろしいか。それでは、光村図書出版の「中学書写」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員 はい。

教育長 それでは、津市教育委員会として、光村図書出版の「中学書写」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定します。

【英語】

教育長 続きまして、英語について御協議をお願いします。それでは、採択候補の報告をお願いします。

調査員代表 よろしくをお願いします。選定案に基づいてお話をしたいと思えます。6者の教科書見本を調査した結果、東京書籍の「NEW HORIZON English Course」が最も適切であると判断させていただきました。その理由についての項目として大きく5つポイントがございます。順を追って説明をしていきたいと思えます。まず1つ目です。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習内容や言語活動を充実させるための工夫ということで、東京書籍は、実際のコミュニケーション場面を意識して教材を提示しております。例えば、1年生の教科書の69ページや86ページ、2年生の12ページ、30ページ、60ページ、3年生は20ページという形で、あくまでも抜粋しただけで、他にもコミュニケーション場面を意識した提示になっております。また、UnitやStage Activityにおいて、常に目的・場面・状況を意識して、日常生活の場に則した設定を行っております。とりわけ3年生のLet's Have a Mini Debateというところにつきましては、所謂ディベートなのですが、やりとりと即興性を意識しながら、他者の考えを踏まえて自分の考えを深め、伝える活動が取り入れられております。つまり、教科書を使ってディベートを行うことができます。英語科での最大の目標は、

今までのような、教科書を学習するという取組から、教科書で学習するという取組を進めておりますので、東京書籍の教科書の場合は、教科書で学習することができるということで、1番目の項目として挙げさせてもらっています。

2番目なのですが、言語能力や論理的思考の育成を図る工夫ということで先ほどのUnit ActivityのStepでは、それぞれ「情報を整理する」「自分の考えを伝え合う」「他者の考えを踏まえ自分の考えをまとめる」ということで、2年生の56ページには、そこでも、Step1、Step2、Step3という形で、1・2・3で構成されているという工夫があります。また、技能統合型の構成ということで、読むこと・話すこと、聞くこと、書くこと・話すことという仕組みを取り入れて、概要を順番に示しながら、構成をしております。つまり、このことによって、最初については、やや英語が苦手な子についても取組をしていって、次に行くという形になっており、多様な生徒一人一人がそれぞれ、興味・関心を惹く工夫をしておりますので、これも1つ特徴だと思っています。3つ目なのですが、他の教科との関連性、いわゆる教科横断型なのですが、これが多岐にわたり入っております。水の問題、エネルギーの問題、絶滅危惧種の問題といった環境問題が3年生の教科書に多いです。92ページにもエネルギー問題が載っております。また、1年生の教科書には、皆さん御存知の「ごんぎつね」が126ページにあり、小学校4年生の国語の教科書に載っている教材の英語版が載っております。3年生のUnit7では社会科の世界遺産についても載っており、2年生のUnit5ではユニバーサルデザインのことが載っております。多岐にわたり、東京書籍には他教科を横断しながら、教科書を学ぶのではなく、教科書で学習することが可能になっております。4番目ですが、教材資料の分量についてです。他者も写真を多く取り入れているのですが、東京書籍の場合は、様々な国の文化や景色を具体的にイメージしながら学ぶことができます。登場人物においては他国の中学生が登場して、Real Life English、ここでは、特にラグビーのリーチ・マイケルさん、実際の人物へのインタビューをモデルとして採用しております。これは、2年生の37ページなんですけど、英語で聞いたり読んだりしたことをグラフや表を活用して理解を深めるサポートもしております。これは3年生の27ページ、39ページに載っておりますので御覧になってください。5番目です。これが、最大の根拠となったのですが、今日的課題の配慮、とりわけ小中接続については、Unit1から5にかけて音と文字の復習をSounds and Lettersで丁寧に取り扱っております。1年生の教科書においては、1年間を通して、小学校で習う単語は最後まで載っておりますので、御覧になっていただければと思います。1年生でいうと125ページなのですが、そこまですっと載っており、1年生の場合は小学校との接続ということでかなり工夫されていることが分かります。

そのため、東京書籍の「NEW HORIZON English Course」を選定させていただき

ました。以上で、選定案を使った説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

教育長 ありがとうございます。ただいまの報告について、御質問や御意見はございませんか。

富田委員 小中学校の接続という話が出てきましたけれども、小学校で4年間、小学校英語を学んだ子どもたちは、今、中学何年生なのですかね。

調査員代表 今、中学生3年生ですね。津市においては先行してやっていたと思うのですよね。

西橋指導主事 そうですね、今年の子どもたちが、中学3年生です。

富田委員 やはりその間、そして、今も東京書籍を使っていると思いますが、また、その後、小中の接続を大きく意識して変わっているということなのでしょうか。

調査員代表 特にそのことを踏まえた上で、1年間を通して、他者にはない、小学校の単語を意識しながら、常に、各ページに載っていますので、1年間を通して、小学校6年生の部分を中学校1年生で行っており、まさに接続の部分でかなり工夫されているというのが、私たち選定委員としての大きなポイントとなっております。

西口委員 小学校で英語が始まって、今、中学校3年生まで来たということですが、けれども。前回も東京書籍でしたよね。前回と今回は同じ学習指導要領に基づいている中で、前回と大きく教科書が変わったなというところがありますか。

調査員代表 前回から大きく変わっているところはないのですが、先ほどの小中接続がまず変わったということと、トピックが当然ながら新しくなっているということ、また、小学校6年生から中学校1年生に上がる段階で、英語でいうとBe動詞と一般動詞という言い方をするのですが、Be動詞はBe動詞、その後、一般動詞というところから、もう小学校で習っているので、例えば12ページなのですが、最初の段階で、Be動詞を使った文章と一般動詞を使った文書とを並立して扱っておりますので、小学校で培ってきた基礎的な学力を敢えてもう1回、零に戻すのではないので、これは大きなポイントだと思います。

西口委員 なるほど。今回教科書が変わるについて、前回よりもタブレットを使うようになって、どこかの教科では二次元コードが充実してきたということが多々聞いたのですが、英語は、特に前とそんなに変わらないですか。やはり充実しましたか。

調査員代表 デジタルコンテンツがかなり充実してきていまして、副教材的なのでここには出しませんでした。かなり教科書会社としましては、すぐタブレットを使った教材が出てきており、そういう付属的なことも工夫されております。繰り返すようですが、教科書を使って学習しているところから、タブレットを使いながら実は、教科書を置いておいて、教科書を使おうと。教科書を使って教科書で学習できるという取組ができるということがありました。

田村委員 先ほどは3年生のディベートの件で。今の教科書でもこれはあるのですか。それとも新たに入ってきたのですか。

調査員代表 ディベートは前からあると思います。ここは、東京書籍の大きなポイントというか、以前からディベートを使った形がある、即興性のあるやり取りということを工夫されていますので、良いところは良いところとして、残されているというような感じがします。

田村委員 結構、授業では楽しい教材として使っているのですか。

調査員代表 使っていると思います。

田村委員 日本語でもディベートを行うことは結構難しいと思っていまして。英語で、中学校3年生がどんなディベートを展開するのかなと。ちょっと想像がつかなかったものですから。

調査員代表 中学生、できています。

田村委員 そうですか。

教育長 小中の接続ということが一番の大きなポイントだとおっしゃられたのですけれど、その中で、小学校の単語がこのように出てきていますが、小学校の単語というものの意味は。小学校は、書くまでできないといけないのですか。

西橋指導主事 書くにつきましては、書き写すところまでを子どもたちは求められておりますので、アルファベット単体を書くということは求められております。ただ、単語としてその単語を書きなさいというようなものは求められておりませんので、例えば Apple という単語があれば、それをリンゴだというふうに認識しながら子どもが書きつづる、書き写すというところまでは求められておりますが、リンゴを英語で書きなさいというところまでは求められていないです。

教育長 だから聞くとか話すとかをしていますね、小学校は。そこへこの、読むとか書くとかということが入ってくるのですよね。そうすると、この小学校の単語と書いてある、これについては、中学校ではそれが書けるようになりなさいという意味ですか。

西橋指導主事 そうではなくて、子どもたちが小学校のときに慣れ親しんでいた音声というものが字になるとこういう形になるのだというところを、音声と文字の認識をしっかりと合わせるというところが、中学校の教員には求められております。そこをわかった上で中学校1年生を担当した英語の指導者は、小中の接続というところで音声と文字の認識を踏まえて、文法指導や文字指導というものを行っています。

教育長 となると、この小学校の単語というのは、中学校の英語では、「もう小学校で習いましたね」ということでは、意味は半分。聞いたり話したりという意味では確かに習ったけれど、書くという意味では、アルファベットを写すことはできたとしても、書けなくてもよかったわけですね。それが中学校になったら、書けなければいけないですよと言っているわけですね。

西橋指導主事 書けるようにするために指導者が文字と音声の認識をしっかりとさせた上で、書けるようにしていくというふうになります。

教育長 何が言いたいかというと、ここは New Word に入ってくるのか、入ってこないのですか。

西橋指導主事 入ってこないです。

教育長 やはり、そうなんですね。

西橋指導主事 書けなければいけないという認識で見るのであれば New Word になるかもしれませんが、教科書を小学校でも使っていますので、教科書の中に自分たちがたくさん聞いて話してきた単語はもちろん文字として教科書には残っています。

教育長 他の教科書はどう、一緒ですか。

学校教育部長 一緒ですね。国がそういう考えですので。

教育長 だから New Word ではない。

西橋指導主事 新出単語というものではない。

教育長 他の教科書も一緒なのですか。さっき言われた東京書籍は、小学校の単語というのは別にあって、New Word が別にあるのですか。

調査員代表 載ってなかったですね。

教育長 載っていなかった。例えば、開隆堂を前に使っていた時がありました。

調査員代表 小学校は小学校、中学校は中学校で、新出の形で出ていました。

学校教育部長 そうですね。教育出版とかでも、小学校での新出とあります。

教育長 やはり New Word ではない。

学校教育部長 New Word ではない。小学校で出ていますよということですね。

教育長 ああ、下に書いてありますね。そこは統一されているのですね。

学校教育部長 国がそういう考え方ですので。

教育長 ふと思ったのは、New Word でできた単語は書けなくてはならないと思うのだけれど、小学校で習ってきた単語はどうしているのかと。そこも意識しながら、ある程度書けるように、それ以上に今は、話せるように。それでも、入試

では書けなければならないと思いますし。やはり、その辺は重要だと、ふと思いました。他はどうでしょう。この小学校と中学校の接続という部分は大事ですね。ちなみに、小学校で英語を学ぶことによって、英語嫌いは増えていませんか。感覚的に。小学校である程度、話す・聞くということでやってきたことが、中学校ではなくなるじゃないですか。その辺りはねらいとしてどうなっているかなと。

学校教育部長 学調の、英語は好きですかということが昨年度ありましたよね。

調査員代表 小学校でやってきた力をそのまま活かせるので、基礎学力がしっかりと備わっているの、そこを伸ばしていきたいという子どもたちは、しっかり英語が大好きになっていきます。一方で、残念な点は、早く英語を学ぶことによって、英語苦手だなということが、悪い意味で前倒しになっていて、永遠のテーマである好き嫌いが激しいということが、一方ではあります。中学校で、書けるだけではない、小学校で学んできた単語をしっかりと見ていて、こういう文字だったのだなということで、私たち、それ、話してきたよなというところで、中学校の教科書を使っていくことがいい意味で接続するのかなと思いますので、総じて伸びていくと、好きな子が増えていると思いたいです。

山口委員 お話を聞いていたら、接続はしていますし、小学校で学んだことが基礎的なことにもなっているのだけれど、苦手意識を持つてしまうことはあるかとは思いますが。ある意味、中学校でリセットできて、ここからスタートというような形で始められるといいですね。苦手意識はあったとしても、そこからでも充分、学びをスタートできるという形で授業展開をもっていただけると。

調査員代表 活動からの学習になってくるので、子どもたちにより意味で切り替えができるような形で、全教職員に話したいなと思いますので。ありがとうございます。

教育長 文法とかそういったところにこだわることで、一番大事な話すということが日本では進んでいかない、話せるというところが。日本語と周りの外国語との母語の違いはあると思うけれど、あれだけバイリンガルの人がたくさんいる諸外国の中で、やはり日本は英語を話せないよなと。やはりその理由の1つとして、ちょっとした文法的な間違いとか、それを間違えてしまうとテストでバツになってしまうとか、そういうあたりはGTECだと、数字ではない形で評価してもらえるので、そこで評価をしてもらって喜んでいた子がいざテストをすると、

そうでもないといった評価になることがありますよね。一時期、GTEC のような方向になっていくのかなと思っていましたがそこはなかなかそうならないことが、残念な気持ちも。

学校教育部長 小学校に外国語が入る時に、全ての県立学校で、GTEC を入れるという動きもあったのですけれども。大学の方は入試が変わってきているのですけれども、GTEC が入らなかったのも、そこは大きいのかなと思います。

教育長 そこは大きいと思っています。

調査員代表 教育者によっては、出川イングリッシュというのがありまして。まず話してみようということを先にして、採点は一番あとにしていくというようなことをやっている教育者がおられるので、努力されている方がたくさんいらっしゃると思いますので。先ほどのディベートも同じで、ディベートの中で英語を使いながら、思いを伝えられる、とにかく話してみることで最後で合わせていくということは、今後の日本の教育において大切だと思いますので、出川イングリッシュを推奨しました。

教育長 絶対そうですよね。

田村委員 ディベートを楽しいと思えるか思えないかで全然違うと思いますよね。間違ってもいいから1回喋ってみる雰囲気を作ってあげられるかどうか、ゲーム感覚で。そうすると抵抗感がだんだんなくなってきて、さっきおっしゃってみえた、音声と文字をつなげる作業って、言葉の覚え方からいったら、そういう順番じゃないですか。日本語だって話すことから覚えて、それを文字とくっつけていくわけですよね。中学校1年生から、小学校で作った土台を、中学校の学習で、次のステップにつなげていくという接続が大切だと思いました。

教育長 よろしいですか。

委員 はい。

教育長 それでは、採択に係る協議に入ります。調査員代表、ありがとうございました。

教育長 では、教科書採択について御意見をお願いします。よいですか。

委員 はい。

教育長 それでは、東京書籍の「NEW HORIZON English Course」を、令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員 はい。

教育長 それでは、津市教育委員会として東京書籍の「NEW HORIZON English Course」を、令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定します。

【理科】

教育長 それでは、理科について御協議をお願いします。

調査員代表 よろしく申し上げます。理科なんですけれども、5者の教科書見本本について調査をいたしました。学習指導要領の趣旨に沿って精査をさせていただきましたけれども、特に選定にあたって重視した点としては、津市が取り組んでいる大きな柱にもなっておりますけれども、教師主導ではなくて、生徒が主体的にどういうふうに学ぶか、生徒同士が学びを深めるためにどういうふうな授業作りをしていくか、それを進めていくためにどの教科書がふさわしいのかということ、大きな観点として選定させていただきました。その結果として、啓林館の「未来へひろがるサイエンス」を令和7年度使用中学校用の教科書としてふさわしいと評価させていただきました。お手元に選定案があると思うのですが、そこに7つ理由を書かせていただいているのですけれども、その中で主な4つについて説明をさせていただきたいと思います。まず1つ目ですが、最近、探究学習ということが言われております。御存じのように探究学習というのは、生徒が自ら問いを立てて、その問いに答えようとして自分で活動していくというもので、現在は、高等学校等で盛んに取組が行われています。そのため、中学校でもどのように探究学習を進めていくのかということが現在、議論されておまして、少しずつ実践されております。このような観点で考えた時に、どのように探究学習を進めるか、いかに生徒たちが主体的に学びに向かうのかが大事になってくると思うのですけれども、この啓林館の教科書では、「探Q実験」や「探Qシート」というものがたくさんあります。例えば、2年生の教科書の191ページを開けていただきたいのですが、ここに、探究実験6があるのですが、その横の二次元コードを読んでもらうと、「探Qシート」というものがあり、探究学習を進めていく上で使いやすい構成になっているという工夫が見られます。

生徒たちの主体をどう引き出すかということもよく分かります。あるいは、各学年の巻頭に、探究の流れが明確に説明されており、我々がどういうふうに進めていくのかというのも非常に分かりやすいというふうに考えました。次に2つ目です。最近、どの教科書でも努力をされているかなと思うのですが、特に啓林館の教科書には二次元コードがたくさんページのつけられておりまして、その中身も、単に解説動画だけではなくて、図を読み込んで活用するという工夫があったり、「ICTでトライ！」という画像で操作できるコンテンツがあったりと、一人1台のタブレット端末を使った授業展開が容易になると同時に、生徒の興味を惹いて、もっとやりたいという気持ちを高める工夫が優れていると考えました。3つ目ですが、例えば3年生の教科書の3ページ、「生命の連続性」の所を見ていただくと、その右側のところに、「学ぶ前にトライ」というコーナーがあります。まずは学ぶ前に自分たちでどう思うかを考えてみて、その右側に、「学んだ後にリトライ」と書いてあるのですが、これをずっとめくっていったくと、39ページも同じように、「学んだ後にリトライ」というものがあります。こういうふうな流れで、学ぶ前と学んだ後で自分たちがどこまで学習が進んだかということが振り返ってわかりやすいような工夫がされています。そのため、自分の到達点を確認できるということと、それは次の学習の目標を持つというように、見通しをもって学習をすることにつなげられるかなというふうに考えました。また、それぞれの生徒が自分の考えがこのように変わったということ进行交流し合う、そういうふうな場をもつことで、より深い学びにつなげるということができるということで、ここが優れていると考えたのが3つ目の理由になります。

最後に4つ目のポイントです。例えば、3年生の教科書の184ページを開けてください。各学年の教科書にたくさんあるのですが、例えば1つ例を挙げると、「部活ラボ」というコーナーがあります。自分たちの学んでいるところが、この部活とどういうふうに関わっているかということがそこで調べられるようになっています。あるいは、225ページを見ていただくと、「探Qのたね」というコーナーがあります。ここは、自分たちでやってみようという工夫が見られます。あるいは、2年生の159ページのところを開けていただくと、「お料理ラボ」というコーナーもあります。いずれも部活とか自分に身近なことの探究とか、お料理とか、生徒たちの生活に非常につながりやすく、実際にやってみたいなど思えるような内容がたくさん取り入れていて、そこがやはり主体的な学びにつながりやすい。家庭でも学習できるような内容につなげているということと考えました。以上のような、大きく4つのポイントについて説明してきましたが、生徒が主体的に学習を進めるためには、啓林館の教科書が優れているということ、こちらを選定させていただきました。以上です。

教育長 ただいまの報告について、御質問や御意見はありますか。

山口委員 教科を社会につなげることであるとか、仕事につなげていることであるとか、とても重要だと思うのですが、この「お料理ラボ」とか「仕事ラボ」とかは、社会や生活とつながっているなと感じますし、つなげてほしいなとも感じます。他者にもこのようなコーナーはあるのですか。

調査員代表 似たような部分は結構あって、いずれも子どもたちの生活につなげやすくということで、工夫がされている部分だと思います。例えば、調査一覧に書かせていただいたのですが、いくつかそういう部分があるのですが、東京書籍には、「お仕事図鑑」や「まちなか科学」というものがあるのです。この部分だけを見ると、どちらも優れているということがあるのですが、そこも含めて、総合的に子どもたちが主体的に学習していくということを考えた時に、こちらの啓林館の方がより分かりやすい、使いやすいという判断をしました。

山口委員 そうですね。地域の中にあるガソリンスタンドとか、いろんなところで扱っていることが理科の単位につながっているということが分かれば、すごく興味も持てるし、深い学びにもなっていくと思うのですが、ぜひ、活用してほしいなと思いました。

富田委員 今、中学校の理科で、理科実験室へと教室を移動して実験をする機会とは、全体の中のどれぐらいですか。

調査員代表 そうですね、きちんと何%かは明確にできませんが、ただ、分野によっては、ほぼ理科室で行う分野がありますし、観察となると、外に出た後に教室でというふうになりますし。おそらく半分ぐらいは理科室で実験を行っていると思います。

富田委員 かつては理科離れということがかなり問題になりましたけれども、どうなんですかね。ここ数年の子どもたちの様子を見て、理科離れというのはずいぶん解消されたのでしょうか。

調査員代表 正直言うと、まだよく分からない。これをやって何になるのということ言うこどももいます。そういう意味でも、自分たちの生活とこういうことがつながっているなど。例えば今も台風が来ていますが、理科の知識があると、

台風に対して、何をしておかなければならないかとか、どういうことをすれば、少しでも危険を減らせるかとか、理科の知識を持っていると、雲の動きを見ているともうすぐ来るということが分かることがある。そんなふうにつなげて考えられると、子どもたちも理科って面白いなと捉えられると感じました。このようなことをいろいろと発信する中で、学び方も少しずつ変わってきているのですが、小学校の時に、理科はよく分からないなと中学校に上がってくる子どもは事実としています。そこで、中学校では、理科はつながっていることが楽しいのだなと教えることが大切だと感じます。希望も入れて、自分としては、ちょっと前よりは少しずつ良くなっているのではないかと感じています。

富田委員 夏休みには自由研究というものがあって。中学生になってうちの子どもも選択制になったのでやらないこともあるのですが、自由研究は家庭の中で結構大きな仕事というか出来事で、探究的な学習と関わるのですが、自由研究と理科の教科書とのつながりとは、どこかに教科書の中で絡めてあるのでしょうか。

調査員代表 教科書の内容をそのまま行っているだけでは、なかなか自由研究にはつながりにくいと思いますが、先ほど紹介したコラムや二次元コードから読み込むものを観ると、もっと調べてみたいという気持ちにさせるような内容もあるので、それを調べて自由研究にするというのは、実際にできるので。そういうことも考えられた教科書になっているなと思います。

教育長 さっきもおっしゃっていたように、高校によっては探究学習に結構力を入れて取り組んでいる学校もあって。そう考えた時に津市の中学校は、どうなのかなと考えていて、最終的には総合的な学習の時間に変えていかなければならないとすごく思うのですけれども。その前に、授業改善の中で理科とか社会科とかでは、この辺りの探究というものが結構関わってくる部分だと思うのです。しかし、そういつている授業に限って、理科は実験もありますが、結構、探究学習とはほど遠い知識詰め込み型の授業をされている方が多いということもあって中学校の授業改善を思っているのですが。理科は、どうですかね。探究というあたり、本当におっしゃる通り、すべて、社会もそうですけれど、時間的に探究と言え。せめて年間に1つ2つ、こんなことができたらいいなと思うのですが、そのあたりはどんな感じですか。

調査員代表 今すぐに全部をこんなふうにやってほしいというのは難しい部分があると感じています。しかし、手を付けられるところから取り組むことが大切

だと思います。例えば、先生が説明しすぎていると。実験をするのに、どこに何があるのかということから、子どもたちに1時間ぐらいいは理科室を覚えさせて、自分たちで全部組み立てて、その通り行かなければ、なぜうまくいかないのかというところからでも行ってほしいという話をしています。そうしないと、何かを1つ調べて探究しようなどというふうにならない。まず、そういうふうな姿勢から作ってという声かけはしています。ただ、反省しながら。探究学習まではとても行けていない。目標としてはあるのですけれども。そういうところからでもやっていかないと。教えてもらうのを待っている状態のままになってしまうので、実験だと。それは少しもったいないと思っています。

教育長 この実験の方法なら別に観てもいいよというか。動画を観ているだけと変わらないと思うような実験のさせ方がありますよね。今、言われたみたいに、やはり、手をかけすぎてしまう、説明しすぎてしまう。そこはすごく思うので、せっかく言っていたいただいた探究学習から。最初はここだと思うのですよね。授業改善の第1はここをもって来なくてはならないと思うのですけれど。理科の中で、探究。この単元なら探究が行いやすい単元はあるのですか。

調査員代表 自分の感覚だったら、生物分野が行いやすいと思います。興味を持ったものをとことん調べるなら生物だと思います。自分自身が、生物分野が好きなので。ただ、化学が好きだったら、実験結果にこだわって探究するということも出てくるでしょうし。分野に対する好き嫌いは大きいと考えます。

教育長 そもそも課題からですよ。普段からそういうことをやっていなかったら、課題とは何かということですよ。全部の先生が、それをやっていきたいですよ。

西口委員 すごく子どもの経験が不足していて。授業を見せていただいた時に、マッチの擦り方から教えなければならないという実態。さらには、いろいろなところで、実験中の事故とか安全とかいうことの縛りが出てきた中で、いかに理科の楽しさを伝えていくかということは本当に難しいと思います。しかし、啓林館の教科書を見せてもらって、この「探Q実験」とは、どのぐらい、どんなふうに生きているのかということを思って。二次元コードを読んでみていたのですが、後ろにある重点的にこれを探究しましょうというシートをつけてもらっている。このあたりをぜひ突破口にさせていただいて、重点的に行いながら、経験不足の子どもたちに興味を持たせていただきたいなと思いますので。

調査員代表 今、おっしゃっていただいた部分については、現行の教科書にもついています。今回はより改善されていますが。どちらも使っている調査員に聞くと、子どもたちに考えさせるのに非常に使いやすいと聞きます。そのため、これは引き続き使っていくのだなと感じました。

山口委員 中学校校区の中に、いろいろな小中企業があると思うのですが。それらの企業は結構、化学の知識、電気の知識とか、そういった原理的なことを使って実際に仕事されていらっしゃるのですよね。そんなに難しいことをしているわけではないと、皆さん、おっしゃられるのですよ。高校生などは教科書の中で習っているでしょうというようなことで、教えてくださるのですね。実際に体験ということ言えば、どれぐらい皆さんが行けるかという部分もあるのですが、利用できる実際の現場があるような気がします、近くに。そして、来ていただけたら喜んでいただけそうな気もしますので。結び付けることが大切なのではないかなと思っていて。今、見ていたら、教科書の中でいろいろなことを学んでいるではないですか。この中の、この仕組みを使っているのだという視点で。

教育長 そういうのが分かったら、すごく興味を持つことができそうですよね。つなげてあげることはすごく大事だと思います。

山口委員 先生がまず気づいていないと、授業の中で言えないと思うので。先生方がまず行かれることがよい気がしています。冷凍技術を使った食品製造加工場に行ってみるようなことからかとも思うので。

調査員代表 ありがとうございます。

山口委員 私も考えます。

教育長 本当ですね。炎色反応の実験だったら、花火ですね。これがそういうものにつながるのだと。花火はそういうことなのだと。もっといろんな、「えっ。」と思うようなことが仕事でありそうですよね。そういうことを使ってやっているような。他、どうでしょうか。

田村委員 山口委員がおっしゃられたような生産業を担っている企業等は、やはり次世代の育成という観点でもものすごく危機感をもってみえて。子どもたちの理科離れとか、ものづくりへの関心というか。小学生レベルになってしまうと思うのですけれども、子どもたちに興味関心をもってもらうためのことなら、結

構協力していただけます。見に来てちょうだいと。ある金型専門の企業では、こういう風に形をつくっているのだということを子どもたちに伝えていただき、その上で、お土産にたい焼きを配っていただいたことがありました。なぜ、たい焼きかというと、一緒だよと。金型で、こうやって形を成形しているのだよと。また、自社で作っている重機のミニカーを配っていただいた企業もありました。余談ですけど。また、料理人でも、一流の料理人ほど、みんな化学を使っていますよね。何と何を混ぜればこうなるとか、化学反応を理解している。いろいろなアプローチの仕方があると感じました。

調査員代表　ありがとうございます。

教育長　はい。よろしいか。

委員　はい。

教育長　はい。では、調査員代表、ありがとうございました。

教育長　それでは、教科書採択についての御意見をお願いします。よろしいですか。理科は啓林館が多いでしょうか、全国的に。

学校教育部長　全国の様子はどうかと見ているのですけれど。

教育長　他では、他者が採用されていることはありましたか。

学校教育部長　今まではありました。

教育長　ありますよね。理科について、御意見はよろしいですか。

委員　はい。

教育長　それでは、啓林館の「未来へひろがるサイエンス」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員　はい。

教育長　それでは、津市教育委員会として、啓林館の「未来へひろがるサイエン

ス」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定します。

【美術】

教育長 では、続きまして、美術について御協議をお願いします。

調査員代表 美術科の調査員会で、3者の教科書見本について調査、検討した結果、光村図書の「美術」が最適であると判断し、選定案として報告させていただきます。選定理由については、選定案にある通りですので、選定案に沿って説明させていただきます。まず、選定理由の1つ目です。子どもたちは、中学校に入って初めて美術という教科と出会うことになるのですが、美術1の巻頭部分というのは、その最初の、美術との出会いというところで、とても重要な場所だと思います。光村図書2、3ページの巻頭部分を御覧ください。そこに書いてあるメッセージは、「美しいものそれは何も特別なものではない。毎日毎日私達は気づかずにいろんな美しいものに取り囲まれて暮らしている」とのメッセージを伝えながら、タブレットをもって美しいもの探しをする中学生の姿を、三重県出身の写真家浅田政志さんの写真で伝えています。美術という教科は人それぞれの美しさを扱う教科であることや、その美しさは日常生活の中にあるということを伝えています。また、その再発見の道具として、タブレット端末を提案しているところも、メッセージ性が高いところです。Society 5.0社会に向けてフィジカル空間、サイバー空間の融合ということが言われていますが、今の子どもたちはデジタルネイティブと呼ばれている世代の子どもたちであり、その子どもたちにとって、どちらかというと、もしかしたらフィジカルな感覚を守り育てることの方が美術という教科にとって、大きな使命の1つではないかというふうに考えた時に、この巻頭のメッセージは非常に具体的に学ぶべき方向性を指し示しているものであると評価いたしました。次に選定案の番号とは順番が前後しますが、関連しますので、次、4番について説明させていただきます。今回の改訂の1つにICT機器やデジタルコンテンツの活用があります。特に鑑賞教材については、どの教科書にも二次元コードからデジタルコンテンツを引き出すというシステムが導入されていますが、その扱いには、違いが見られます。光村図書の教科書、美術1の58ページを御覧ください。並行して日文の美術1、56ページを御覧ください。両者とも火焰型土器について扱っており、紙面上では両者とも原寸大ということにこだわって提示がしてありますが、二次元コードから開くことのできるデジタルコンテンツでの扱いには違いが見られます。日文の方は、二次元コードから開いていくと火焰型土器を指先で、画面をくるくる回すと、火焰型土器をくるくると回すことができます。そうすることで、どの方向からも見ることができ、底からも見るすることができます。それはデジタルだか

からこそ可能になる鑑賞方法であるし、学術的には大変面白い提案の仕方だと思うのですが、一方で、土器の重さとか、質感とかのフィジカルな感覚は、逆に伝わりにくいのではないかというふうに考えます。一方の光村図書の方は、火焰型土器の内側に残っている焦げの跡に注目させることによって、実際に煮炊きに使われていたという事実から、揺らめく炎の中に置かれた火焰型土器や、その周りで煮え焼けるのを待っている人々の姿を想像させるように誘導していく鑑賞教材になっています。このように、光村図書の教科書は、鑑賞教材を「体感ミュージアム」というふうに名づけて扱っており、デジタルな方法を活用しながらも、あくまでもフィジカルな感覚を大切にしていくことが、火焰型土器の扱い方にも表れています。他にも、例えば、光村図書の美術2・3の27ページを御覧ください。江戸時代の浮世絵のページには和紙を使い、当時に近い見え方にこだわっています。また、美術1の42ページを御覧ください。風神雷神像を単体の彫刻作品としてではなく、実際に三十三間堂内部に置かれている様子の再現にこだわり、神に近い存在として人々を見下ろす、風神雷神の姿を威圧感たっぷりに再現するなど、デジタルコンテンツを活用しながらもあくまでもフィジカルな臨場感や実物感にこだわった鑑賞教材になっています。次に、選定案の理由、5番です。デジタルコンテンツの活用とともに、今回の改訂の大きなポイントの1つに、閉ざされた専門領域の美術ではなくて、社会に拓かれた美術、社会の中で生きる美術の力との視点があります。光村図書2・3の60ページと、日文の美術2・3下、26ページを御覧ください。両者ともに扱っているピカソのゲルニカですが、日文ではピカソの若年期や晩年期の作品と並べて作家ピカソの生涯を描き出そうというふうにしています。一方の光村図書は爆撃直後のゲルニカの写真を掲載し、芸術作品と社会とのつながりを重視して見せています。ゲルニカという作品は、当時開催予定だったパリ万博のスペイン館のエントランスのデザインを任されていたピカソが、最初はもっと明るい雰囲気のスเปนの、楽しい部分の絵を描こうとしていたところに、ゲルニカ爆撃の報道に触れて、急遽書き直した作品です。このことは、選定案の5番にも示してある理由とも関わっていて、多文化共生社会の視線とも重なります。美術を、閉ざされた一部の専門家のものとして捉えるのではなくて、現実世界の中で万人に拓かれたものと捉え、表現・発信することの具体的な役割や価値を効果的に学ぶことを明確に意図しているところも評価できます。順番が前後しましたが、選定案の理由2番です。これは生徒作品の扱い方です。教科書に掲載されている参考作品は、芸術家の作品だけではありません。掲載されている作品の半数は生徒作品です。その扱い、区分についても光村図書が優れているというふうに結論づけました。光村図書美術1の26ページを御覧ください。みんなの工夫というページです。他者の教科書も生徒作品には作者の言葉として制作者の声を紹介していますが、光村図

書は作者の姿やデジタルコンテンツの中では、自身の作品について語る同世代の仲間の姿が示されています。より効果的に同世代の声を、臨場感をもって感じることができ、他者理解や自己肯定感の涵養、惹いては、多様性の尊重にもつながる内容になっています。最後に3番に示した、選定理由は使い勝手の良さです。以前までの教科書では制作に関わる知識や技法については、題材ごとにそのページの中で紹介をされていました。教科書を順番に全て扱っていくわけではない美術では決して使い勝手の良いものではありませんでした。その点について、今回の改訂で、どの教科書も工夫されており、例えば日文では、巻末に学びを支える資料としてまとめられています。しかし、3年間にわたる授業に、常に3冊の教科書を持つてくるということは現実的ではありません。その点で、光村図書が知識や技法についての学習内容を別冊にまとめたことは大変画期的であると言えます。光村図書の中に1回り小さい、美術1資料というものがあります。それが、その別冊にあたります。使い勝手だけではなくて、その内容も大変充実しています。別冊資料2ページを御覧ください。見開き1ページの中に、画材、技法が紹介され、その一つ一つに二次元コードが付いています。1人1人が持っているタブレット端末から二次元コードを読み取っていけば、生徒それぞれが選んだ技法について、動画での詳細な説明を観ることができます。同じ教室の中でそれぞれが自分に合った技法を使って表現しながら、同時に自分とは違う技法で制作する仲間の姿にも触れることができる。美術科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、大変有益な内容になっていると考えます。また、現在多くの学校では、美術科の副教材として美術資料が購入されています。この別冊があれば、もしかしたらその副教材が不要となり、保護者の経済的負担の低減になるものというふうに考えています。以上の5点を理由に光村図書の教科書を選定いたします。以上です。

教育長 ありがとうございます。ただいまの報告について、御質問や御意見はございますか。ちなみに、美術は、変わっています。今までは日文、今回の提案では、光村図書ということです。

山口委員 具体的な授業についてお聞きしたいのですが。絵を描いたり、彫刻をしたりというようなことを、3年間を通して取り組んでいますが、年間授業時間数はどれぐらいですか。

調査員代表 2・3年生は年間35時間、1年生は年間45時間です。

山口委員 そんなにあるんですね。週1時間。

調査員代表　そもそも自分が教員になった時には、1週間の中で、2時間続きの授業があったのですが、1時間になったのですね。

山口委員　2時間続きは無いのですか。

調査員代表　はい。だから、授業時間数が半分になったのではなくて、継ぎ目の準備片付けの時間が倍になっているので、結局3分の1になったぐらいの捉えでいます。だから、教科書を最初から最後まで全部取り組むということはほぼ不可能で、教科書の中から、学習指導要領に沿って、デザイン・絵画分野、彫刻・工芸分野、鑑賞という3つの分野の中からバランスよくデザインをして授業をすることになっています。

山口委員　教科ですから、評価をするわけですよね。評価をすることは難しくはないのですか。

調査員代表　難しいです。難しいですが、出てきた作品だけではなくて、制作過程の途中段階とか、制作に入る前の、例えば、自分は書かせるのですけれど、その子がどんな意図をもって、どんな暮らしの中で、どんなことを表現しようとしているのかということも捉えてないと。結果、出てきたものだけで評価してしまうことは、今は無いと考えます。

山口委員　それは、アウトプットさせるということですか、生徒の意図なり、思いなどを。

調査員代表　はい。

山口委員　それも含めての評価ということで、総合的に評価してみえるのですね。今は、幼児期からも造形は学んでいますので。

調査員代表　大体、方向性はずっと、20年周期ぐらい揺れているところがあって。一時、苦手な子を出さないという部分、それは大事なことですけれど、誰でもこうやって取り組んだらこんな作品ができますよというような、同じテーマ、同じ技法、同じ材料を使って、先生が言う通りに進めていくと、こんないいものができるよということが、もてはやされた時代もあるのですけれど、今は、そうではないと思って。人それぞれにとっての美しさとか、素敵さは人それぞれ。

それを1個1個、大事にできる教科にしていこうという意味でも、光村図書の教科書はその視点を持っていると感じます。

山口委員 だからこそ、評価が難しいのですね。良い悪いが無いような形で。

調査員代表 そうです。

山口委員 ありがとうございます。

田村委員 確認なのですが、今、調査結果一覧表を見せていただいても、現行の日文と光村図書は、本当にわずかなところで拮抗していると思うのですね。そんな中でも、今使っている方じゃない光村図書を、総合的に見て、現場の先生方も、やはり生徒たちにとってもこちらの方が授業を進めていく上で良いという判断をされたということですね。

調査員代表 調査員会の中では、現在、現場で実際に授業している教員が2人、そして自分が管理職、そして、PTAの方にも参加してもらっていました。光村を一番推されたのは、現場の先生です。例えば、自分たちも年齢が高くなってきているので、それこそデジタルコンテンツをどうやって子どもたちに伝えようみたいなふうに考えてしまうのですが、自分たちはフィジカルでずっとやってきた人間だからこそ、デジタルはどう使うのかと迷うのですが、現場の先生たちは子どもと接しているので、子どもたちは、デジタルにいくらでも慣れていて、逆にフィジカルな方の経験がすごく乏しくなっていることに危機感を持つ中で、フィジカルな体験を大切にしている光村図書が、美術という教科が学校の中で担っていくべきところなのではないかということで選定させていただきました。

田村委員 最近では、描くそのものがデジタルで、タブレットを使って。実際にそれで収入を得ている画家もいらっしゃる時代になってきましたよね。まだ、授業はまだそこまでは行っていないと思いますけれど。

調査員代表 もういつでも行こうと思ったら行けるかなと思うのですが。やはりデジタルとは視覚に偏っていると思うのですよね。匂いとか弾力とか、そういう経験が本当に少ないのかなというふうに思うし、色についてもデジタルにすごく慣れているのですけれど。子どもたちの間で流行っているオンラインゲームがあるのですけれど、自分の身代わりが架空世界の中で空を飛び回るのですよね。そこでは、4時間ぐらいで1日の時間が変わるのですが、その中で朝日が

昇ってきて、朝日がきれいだとゲームの中で感動している子たちがいて。実物の朝日を見たことがないが無いと思うのですよね。その辺の、デジタルを否定するつもりはないのですが、デジタルがあることでよりフィジカルが鮮明に見える、そんなところに美術が果たすべき役割があるのではないかというふうに感じます。

田村委員 そうですよね。絵1つ取っても、何で描くかというので、しかも、突き詰めれば突き詰めるほど、得意分野がありますよね、油絵であったり、水彩画であったり、硬筆画であったり。それを全部限られた時間にとは。

調査員代表 そうです。全部を教員が1人で説明して、8回授業して8本技法がやっと分かるよりも、このコンテンツを使うことで、同時に、それぞれが取り組みながら、お互いに自分の技法だけではなくて、自分とは違うことに取り組んでいる子とも教室の中で触れ合えるということがすごく大事なことになるのかなと。

田村委員 さきほどの説明の、別冊資料を見て思いました。あれは使い方次第なのですよね。同じリンゴを描くのに、どれで描くかを子どもたちに選ばせるということですね。

調査員代表 自分のイメージしているものを表現する上で、どの材料が最適とか、もしかしたら、こんなことができるなんて、やったことがないからと、初めてのトライで行う子がいるなど、それぞれだと思うのですが。課題は、先ほど委員さんが言われたように、みんなが違う技法を使って表現していく部分をどう評価するかというのは、教員の力となるでしょうね。

山口委員 実体験の差が美術の時間に表れるということをお感じになられますか。実際に、触ったことのある、見たことのある生徒と。

調査員代表 そうですね、実体験。御質問に答えているかどうか分かりませんが、例えば、授業の中で校舎風景を描きましょうといったような、自分たちが暮らしている学校の風景画を描きましょうという時に、例えば、遠近法でこの構図で描いたら一番綺麗に書けるような場所がもちろんあるのですよね。そこで描く子もいるのですが。例えば3年間暮らしてきた自分の学校の中で、思い出が詰まっている場所とか、どうしても構図的に絵にしづらい所でも、そこに思い入れがあって、そこを描いた時に、遠近法で描く子は見た目通りの遠近法で書く子もいれば、例えば、階段の片隅の踊り場、ここで先生に叱られたのだという

場所を思い出して描く時に、遠近法ではなくてその場所に抽象的な表現であっても先生が怒ってる顔とかその時の気持ちみたいなものが色に出てくるなど、そんなことが経験としてにじむことがあるのかと思いますし、それを認められる美術でないと面白くないというふうに思います。

山口委員 ありがとうございます。

西口委員 美術とは、1つの作品を作るのに何時間もかかるものなのでしょうか。

調査員代表 もちろん素材とか技法にもよるのですが、例えば、ポスターを1つ作るのに大体2か月です。

西口委員 ですよ。2か月ぐらいかかりますよね。そんな作品も作り出さなくてはならないし、教科書の内容も扱っていかなくてはならないしということで、すごく大変だろうなということを思って。そのような中で、風神雷神図の話のところに戻りますけれども、光村図書はインパクトを持ってこうしたのと、しかも、横から全景も見せて、いかに鑑賞を身近な部分にしてくれるかということがよく表れている教科書になっているかなと思ったのです。私も、鑑賞というと、子どもたちにとって遠い存在かなと思うのですが、これから生きていく上で、鑑賞が自分の生活を豊かにしてくれるので、教科書をどう使っていくのかという点が、本当に中学校の美術の先生、大変だろうなと思いました。これを35時間だと思いつつながら。

調査員代表 美術の授業時数が減った時から、大きなテーマなのですが、1つの方向性としては、他教科との連携の部分で、例えば、ポスターを描く。実際に絵を描き出す前の部分、例えば、人権ポスターはどの学校でも取り組んでいるのですが、描くテーマを見つめる段階は、道徳であったり、学活であったり、他の教科の中で行って、その思いを、明確にしたものを表現していくという段階だけ、美術の中でポスターにしていくとか。あとは、授業時間外のつながりという意味で、言っていたように、この教科書に載っているものだけではなくて、このことをきっかけに、近くの美術館に行ってみようと思う子が育つとか。そういう部分で、他の時間につながっていくような美術にしていくことが今、課題なのかなというふうに思っています。

西口委員 他教科との連携。この和菓子載っている箇所も、教科書を見ていて

すごく気持ちよくて。家庭科とコラボできていくとよいのかなと思いました。以上です。

教育長 よろしいですか、他に。

委員 はい。

教育長 調査員代表、ありがとうございました。

教育長 それでは、教科書採択について御意見をお願いします。光村図書に変えますとのことですね。よろしいですか。

委員 はい。

教育長 それでは、光村図書出版の「美術」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員 はい。

教育長 それでは、津市教育委員会として、光村図書出版の「美術」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定をいたします。

【音楽】

教育長 続きまして、音楽、お願いします。音楽は、一般と器楽を別々で。それでは、まず音楽一般について採択候補の報告をお願いします。

調査員代表 それでは、音楽一般から選定案に基づきまして報告させていただきます。音楽一般は、2者の教科書見本本について、学習指導要領の趣旨に基づいて精査をいたしました。その結果、教育芸術社の「中学生の音楽」が最もふさわしいと評価いたしました。その理由として、7点書かせていただいておりますが、その中で主要となるものを御説明させていただきたいと思います。なお、教科書の方につきましては、教育芸術社の1の教科書と、あとは、器楽の教科書を使いながら、説明させていただきます。2・3の上下につきましては、構成的には同じような構成になっておりますので、同じような内容で同じような取組をしていると見なしていただければと考えております。それでは、まず音楽一般の方から御説明させていただきます。ポイントの1といたしまして、早速ですが、

1の教科書の8ページを御確認いただければと思います。こちらには、学習内容についていろいろと表示がなされておりますが、左の方にオレンジ色で五角形のものがあると思いますが、ここは評価の観点と関連付けられながら、それぞれどのような学びを、1年間の見通しを持って行っていくのかというところが大変見やすく工夫されております。ですので、子どもたちがぱっと見て一目で視覚的に学習の流れであるとか、これはこのような形で評価されていくのかとか、そのようなところも、自分たちで感じながら取り組んでいくことができるかと思っております。10ページを御覧ください。教育芸術社の音楽の教科書には、各ページというか、題材ごとに音楽的な見方・考え方を働かせて学習するためのポイントが例示されております。10ページのこの曲におきましては、10ページの右上のところに、掲示板のような形でぶら下がっているものがあると思うのですが、歌詞に込められた思いは音楽にどのように表されているかどうかということで、もちろん曲を歌ったり聞いたりその中を分析したりということに加えて、見方・考え方として、このようなめあてですね。そういったものも、それぞれの題材に準備されているというところで、主体的・対話的で深い学びというところへもつなげていきやすいのではないかというふうに感じております。ポイントの2番ですが、こちらの方は主要教材がいろいろありますが、特に共通教材、日本の歌につきまして、それぞれの教科書の扱い方が学年によって違っております。この教育芸術社につきましては、やはり発達段階をよく考えられた扱いになっておりますので、1年生の時、2年生の時、3年生の時というふうに、きちんと共通教材を分析して、掲載されているというところが評価できると考えています。3番につきましては、最近多くの教科書において、創作の題材というものより充実してきております。次の理由の4番のところでも、御説明はさせていただきますのですが、いわゆる二次元コードにおいて、創作のポイントであるとか、創作ができるようなプログラミングのようなものが掲載されているというところも、教育芸術社の大きなポイントだと考えております。ですので、自宅であったり、授業内のグループ学習であったり、個人的な活動であったり、いろいろな場面でこのICTを使って学習を進めていくことができるというところも準備されているところが評価できると思います。4番、先ほども申しましたが、二次元コードが、1の教科書においては44箇所、掲載されております。この44個が4つのカテゴリーに分けられておりまして、もちろん鑑賞でありますとか、動画的なもの、伴奏、創作的な課題、主要な人物のインタビュー等も載っていますので、子どもたちがいろんな視点から、音楽を楽しむ、1つの題材になるのではないかというふうに考えております。また、68ページを御覧いただければと思います。いわゆる読み物教材的なものも教科書の中で扱われておりますが、68ページには見方・考え方の1つである、いろいろな音楽、特に生活

の中にある音楽に触れていくということも考えられているのですが、教育芸術者につきましては、1の教科書を含め、2・3上下におきましても、こういった生活や社会の中の音や音楽ということで、より丁寧に触れられております。ですので、ここに掲載されている歌を歌ってばかりとか、演奏してばかりではなく、ふと生活に目を向けた時のいろいろな音であるとか、音の使われ方であるとか、グループ学習であるとかに広めていきやすく掲載しているというところが良いと考えております。また、66ページには、著作権の読み物教材が掲載されております。他者においては2・3下に掲載されておきまして、音楽芸術社につきましては、1の教科書に掲載されております。やはり1年生の段階から、こういったものなどにしっかりと触れていくことで、SNSであるとか情報化社会の中で、きちんと知らせていくということも大事なポイントだと考えておりますので、適した学年で扱われているということで評価をしました。また、ユニバーサルデザインフォントにおきましては、どの教科書もきちんと掲載されているし、どちらが良いかという点では、なかなか難しいところでしたが、例えば、1つの楽譜を見ますと、その中に掲載されている歌詞やその歌詞の文字、フォントの大きさが丁寧にしっかりと作り込まれているのが、教育芸術社の方であるかと調査員で判断いたしました。以下のようなポイントで教育芸術社の「中学生の音楽」が最も適切な教科書であるというふうに判断いたしました。音楽一般の教科書については、以上です。

教育長 はい、ありがとうございました。まず、音楽一般の報告について、御質問や御意見はありましたらお願いします。

富田委員 2社しかないということで、例えば、二次元コードを比較しても、逆に教育出版はなぜこんなに二次元コードが無いのだということが気になったのですが。例えば、目次のところに1つだけありますが、ここにまとめてたくさんあるということはないのですか。

調査員代表 そうではないです。中身は同じような形で、動画で曲が紹介されていたり、伴奏があったりということで、1つの二次元コードにもうすごく情報量があるということではありません。数として少ないと判断できるということで、内容的には変わりはありません。

山口委員 音楽は3年間を通して何時間、授業時間数があるのですか。

調査員代表 1年生で45時間、2・3年生が35時間ということで週1時間と

いう形での扱いになっております。

山口委員 その中で歌唱表現や器楽を扱うのですね。歌を歌うというもので評価をするのと、あと、学科試験で。

調査員代表 はい、そうですね。筆記の部分や、学力の点数、鑑賞後の気持ちを自己表現するための記述等が、プリント学習としてはありますので。

山口委員 表現力という点で言えば、記述の面で表現をすることが好きな生徒と、音楽が好きな生徒と、合唱で表現することが好きな生徒と、いろいろなところで表現をしていくことになり、それが1つとして音楽ということになると思うのですが。そこを成績にちゃんとつけていくことを日々の授業の中でされるのかと思いますが。また、授業の中で、音楽も聴かせますよね。その時にしか聴かないだろう生徒もいる中で、たくさん聴かせていただけたらと思います。私もすごく聴いていた覚えがあるので。今、教科書を見ていると、いろいろな楽器、琴であるとか。様々な音楽に触れる機会を持たせようと思っていらっしゃる、アンテナを立ててその後の社会生活の中で生かしていけたらということも感じるの、とてもよい教科書だなと感じますし、もう1つの、教育出版の教科書は、おっしゃる通りフォントが小さくて見えにくくて。こちらの方がすごく読みやすいなと思ってますので、そこは大事な点かと思います。こちらの方がいいなと思います。

教育長 教科書の選定とは関係ないかもしれませんが。どうして2・3年生の上、2・3年生の下なのですか。何が言いたいかというと、2・3年生の上は2年生で取り扱うというわけではないのですか。

調査員代表 そうですね。これは、私の考えになるかもしれませんが、基本的には2・3年生の上は、2年生で扱っているイメージがあります。

教育長 そうですか。しかし、3年生で扱ってもよい中身も入っているという、そんなニュアンスですか。

調査員代表 はい。

教育長 はい、よろしいですか。

委員 はい。

教育長 はい。では、続けて、器楽の報告をお願いします。

調査員代表 それでは、器楽の選定案を御覧になってください。同じく教科書は「中学生の器楽」を選定し、それについて説明させていただきます。先ほどの、一般の「中学生の音楽」の御説明と重なる部分はたくさんあります、同じ教科書会社ですので。まずは8ページを御覧ください。ポイント1の項目になりますが、学習内容と、いわゆる学習評価の観点が視覚的に分かりやすく、提示されているということです。このような形で、こういった表現、こういった工夫がどの曲、こういった楽器で行われているのかというところが、見て分かりやすく工夫されているのかということで御説明させていただきます。また、2番のところで、「アンサンブルセミナー」ということなのですが、16ページを見ていただきますと、先ほど音楽一般の教科書と同じように、16ページの右上のところに掲示板のようなものがあり、特にふさわしい表現をするにはシミュレーションをどのように工夫するとよいのかということで、もちろん映像だけではなく、音楽的な見方をしながら、興味関心の幅を広げていこうというような感じで、めあて的なものがそれぞれの題材の所でも出されているということで評価できると感じています。また、明らかに掲載されている楽器の種類が、教育芸術社の方は多いです。いろいろな楽器がたくさん掲載されておりますので、なかなか音楽の授業でしか知り得ないだろうという楽器等も教科書を開いていきながら、二次元コードをつなぎながらで、いろいろと知ることができるというところでもやはり器楽の教科書としては、大事なところだと思っております。特に、63ページあたりからは打楽器が特集されているのですが、これだけの打楽器が載っている教科書はなかなかないのではないかと思います。吹奏楽部の子たちでないとなかなか触れ合わない楽器もたくさん記されております。ただ、中学校で扱う主な楽器はありますが、なかなか多くの授業で扱うことは無いですので、この機会にこのような音が鳴るよとか、こういうふうに演奏するのだよということも、教科書を見ながら、二次元コードをタブレットで取り込みながら、学んでいくことができるのではないかと思います。また、選定案の4番ですが、アルトリコーダーやギターの奏法についてです。いわゆる運指、ギターのコードの、指の押さえ方であるとかイラストで丁寧に記されております。ギターであれば102ページになるのですが、こちらは他者の方では、写真なんですね。教育技術社はイラストなんです。イラストと写真の違いは、どの弦をどの指でどこを押さえているのかというところが視覚的に分かりやすくなっています。写真であると、その辺が分かりにくくなっているということも、初めてこういったところに

触れていく子どもたちにとっては大きなポイントになるのではないかと考えております。また、二次元コードも、この教科書には40箇所ほど掲載されております。奏法の仕方であるとか、楽器を奏でる前の準備の仕方であるとか、そういったものも動画でしっかりと優しく伝えられているので、例えば、家庭学習で予習してくるであるとか、そういったものにも使えるコンテンツになっていると考えております。ユニバーサルデザインフォント等は、先ほども申しました通り、見やすさにしっかりと配慮して作られている教科書であると考えております。以上、「中学生の器楽」の説明を終わらせていただきます。

教育長 ただいまの報告について、御質問や御意見はありますか。

西口委員 中学校の音楽は、どうしても合唱コンクールのイメージが強くて、器楽でいうとアルトリコーダーと、三味線、和楽器、太鼓に取り組むというイメージを持っていたのですが、器楽の最後の方に、合奏曲が出ていますよね。小学校では結構合奏をするのですが、中学校でもこんなに合奏をしているイメージがあまりないのですか。

調査員代表 これをすべて行うことは難しいと思います。

西口委員 そうですよ。

調査員代表 ただ、どれも伴奏もついておりますので、例えば、グループ学習で曲を選んで、それぞれ発表し合うような使い方もあり、同じ曲をみんなにするのではなく、いろんな曲をそれぞれグループでやりながら発表することがあります。よりそれで、こういった曲なのだということが、子どもたちにも分かりやすくなるように使われていることがあります。

西口委員 35時間でできるのかと思ったので質問しました。すみません。

調査員代表 合唱コンクールに結構時間を使うというところはあります。

西口委員 分かりました。

山口委員 二次元コードで音声を聴くということなのですが、それは各自が聴くわけではなく、先生がスピーカーか何かで、読み取ったものを聴かせるというイメージですか。

調査員代表　そうですね。もちろん全体で聞く時にも利用はされますし、先ほどのように、例えばグループでいろんな取組をする時は、グループに1台のタブレットで聴き合うとか、練習するとかはあります。場所の配慮は必要かもしれませんが、そのような形で、自宅であらかじめ、予習するとか、復習するために聴くとか、曲に触れる幅は広がっているのだろうというふうに思います。

山口委員　興味関心があって、意欲があれば、どこでも学べるということですね。

調査員代表　そうです、はい。

教育長　よろしいですか。

委員　はい。

教育長　調査員代表、ありがとうございました。

教育長　では、教科書採択について御意見をお願いします。

西口委員　提案通りで。

教育長　他の市町もみんな教芸、というわけではないですね。

西口委員　後ろについている曲とか。

教育長　曲の好みですか。

田村委員　一覧表を見ている限りでは、2者間でさらに差が開いていることが気になりました。

教育長　よろしいですか、意見は。

委員　はい。

教育長　それでは、教育芸術社の「中学生の音楽」「中学生の器楽」を令和7年

度使用中学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員 はい。

教育長 それでは、津市教育委員会として、教育芸術社の「中学生の音楽」「中学生の器楽」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定します。

【道徳】

教育長 最後は道徳の協議をお願いします。それでは、採択候補の報告をお願いします。

調査員代表 道徳は7者ありましたので、学習指導要領の趣旨に沿って精査した結果、日本文教出版「あすを生きる」の教科書が、ふさわしいと評価しました。選定案に従って理由を説明させていただきます。まず、選定案1つ目の、生徒が学校や家庭で見聞きする日常的な問題ですが、例えば、3年生の教科書の108から111ページを御覧いただけますでしょうか。「電車の中で」というような教材になりますが、電車内の面倒を避けるために最初から席に座らなかった主人公と、気持ちよく席を譲った女子2人の行為を通して、思いやりの心と形を考えられる教材です。また、内容理解を助け、生徒の関心を高めるために漫画教材にもなっています。さらに、その後の112から113ページでは学びを深めようというのが設定されていて、教材場面の役割演技等の体験的な学習を通して、道徳的価値について多面的・多角的に考えを深めることができます。他にも教材の中で起こっている道徳的な問題を見つけ、その解決に向けて、主体的・対話的に考える、問題解決的な学習ができる教材も入っております。2つ目、系統性と発展性についてですが、キャリア教育の理念のもと、1年生では新しい自分と出会う、自他の感動体験を話し、受容し合う。2年生では、人との関係を見つめる、2つの異なる意見から自分に向き合う。3年生ではより良い人生を拓く、2つの対立する意見から他者との向き合い方を考えるというものが、設定されています。1年生は中学生になり、他者との関わりを通して新しい自分と出会う中で自己理解を深め、自尊感情を育てる。2年生では仲間との意見交流を通してお互いを見つめることや職場体験学習、生徒会活動等と関連付けながら、社会参画の意義と自己有用感を育てる。3年生では最高学年として公共性や国際社会への意識を高め、誇りと志ある生き方を育てることができるようになっております。3点目、ユニットについてですが、異なる内容の項目に属する様々な教材をコラムにまとめて組み合わせています。日本文教出版では、いじめと向き合うユニッ

トが主たるものなのですが、自立と共生、環境と未来という2つのテーマでよりよい社会を考えるというユニットが掲載されています。自立と共生では、社会参画、人権教育、多様性の尊重、ウェルビーイング等。環境と未来では、自然愛護、環境保全、SDGs等が取り上げられています。4つ目、「道德ノート」についてです。7者のうち、「道德ノート」がついているのは、日本文教出版のみです。今回の改訂で、全ての教材で発問欄が空欄となり、生徒の実態や、授業スタイルに応じて発問を自由かつ柔軟に設定できるようになっています。また、全ての教材で自分の振り返り欄の下に、自由欄が設定され、自分の振り返りを言語化する、保護者や教員がコメントを記入するなど、活用の幅が広がっています。また、この「道德ノート」と同じワークシートを二次元コードから読み取ることもできて、タブレットで活用することもできます。さらにノートがありますので、授業であった資料等を貼り付けることで、ポートフォリオとして活用することもできます。5番目ですが、いじめの認知件数等の分析によって、中学校1年生が半数以上を占めること、長期休み明けにいじめ行為が強くなることを踏まえ、いじめと向き合う教材が1年生に3箇所、2・3年生に2箇所、長期休業明けの時期に複数配置されています。1年生では、いじめを身近な問題として捉え、2年生では人との関係について視野を広げて考える。3年生では互いに人間として尊重し合う生き方について考えることをテーマとして、継続性・発展性を持たせています。また、1年生の教科書の34から35を御覧いただきますでしょうか。そこで「いじめって何」ということで、いじめの4層構造に触れるなど、各学年で発達段階に応じて、生徒がいじめの構造や人権等の背景にある知識を深められるようになっております。さらに、1年生の教科書30から33ページでいじめの事例を直接的に扱った教材と、もう1つ、36から39ページにあるように「言葉の向こうに」という教材ですが、違う観点からいじめ問題を間接的に考える教材の、両方が掲載されており、生徒が主体的に考えられるようになっています。3学年ともに視野を広げてというプランでは、知識を深めるプランと、スキルを身につけるプランで構成されています。最後に6つ目のポイントですが、どの教科書もユニバーサルデザインフォント等の配慮があるのですが、日本文教出版の場合は、文字色・背景色の変更、行間や文字の大きさの変更ができるリフロー機能とか、音声朗読、総ルビ表示ということで、タブレット等を使えば、1人1人に応じた学習ができるように学習支援機能が充実しています。従って、持ち帰って家庭でも自主学習できるように配慮されてます。以上の理由で、日本文教出版を選ばせていただきました。

教育長 では、ただいまの報告につきまして、御質問・御意見はございますか。

富田委員 日本文教出版は、「道徳ノート」があるということが、前回採択された時にも話題になっていたと思うのですが、その後、これは道徳の授業の中でかなり活発に学校現場では使われているのでしょうか。

調査員代表 前回と今回の変わったところは、前回はいわゆる教科書に書いてある発問が「道徳ノート」に一部分、載っていました。従って、調査員の中からも、本来なら、もう違うポイントで聞きたいということがあったとしても、そこに書いてあるものですから、そこも入れて、授業を組み立てなければいけないので、時間的に非常に苦しい、焦点がずれるということがあったのですが、今回は発問欄が全て自由になったので、いわゆる指導者が、発問するものをそのまま子どもがそこに記述するということができるということで、前回より評価が上がったという意見になりました。

富田委員 今回、そういう良い変化があったので、より活用しやすくなっているということですね。

調査員代表 そうですね。正直、前は負担感といいますか、やりたいことと違う発問が載っていると、負担感につながるようなこともあったのですが、今回はもう自由に使えるということで、そういう意見になりました。

富田委員 もう1点なのですが、今回、この日本文教出版と特に競った出版社はどこになりますでしょうか。光村図書ですか。

調査員代表 一長一短あるのですが、道徳部会には教員でない方が1名、保護者代表の方が入っていただいていたので、教員目線ではない、読みやすい、読んでみようかなと思う教科書はどれかということも、その方にお聞きできたので、そのようなことも含めると、教育出版、それから、あとは、あかつきか学研ですけれど。2番を挙げようと言われたら、教育出版というふうには思いました。ただ、日文とは距離のある2位なのかなというのが、全体的な意見でした。

西口委員 選定案の2番の、キャリア教育の視点から、1年では、2年では、3年ではという、系統性持たせているということですが、具体的に教科書でいうと、どこからその視点を持たれたのですか。

調査員代表 例えば、新教材としてあるのは2年生の120ページを見ていただきますと、「制服は誰のもの」ということで、今の生徒会等々で協議している

学校も多いですが、そういうふうなものが取り上げられていたり、1年生だと158ページ、よくプロフェッショナル等でも取り上げられている羽田空港の清掃をして見える方であったりとか、こういうふうな教材が網羅されているということになります。

山口委員 教材に関して、これだけの種類があるのですけれども、何か違いがあったのかなと思って、取り上げている中身が。より中学生に近いと言いますが、心情に近いものであるとか、道徳的にもっと踏み込んだものであるとかといったような、教材の取り上げ方に違いはありましたか。

調査員代表 並べて読んでいて思ったのは、共通している教材もたくさんあるんです、7者に。それもありますけれど、先ほど言わせていただきましたが、教員でない者が調査員に1人、入っていただいていたので、ずっと読んで、やはり読むのが辛かったといわれる教科書も正直ありますし、それから、これはずっと読めたというものもありまして、特徴としては、日本教科書はウェルビーイングにつつまんだなということで評価できる部分もあったのですが、ただ読みやすさとか、いろんな部分を考えると。

山口委員 中学生が読んで、道徳というのは、そう言った心の中とか、本音と建て前のところとか、こうあるべきだということも踏まえての、より中学生の心情に触れるものの方が。

調査員代表 そうですね。そういうので、各者、良い所、悪い所があるのですが、平均点をつけたら、ここが一番良いという評価になったというのは正直なところですよ。どこにも一長一短はありますので。

山口委員 最後にこういったページがあるのはいいですね。分かりやすくて。

調査員代表 そうですね。最後にある教科書もあれば、最初に、とにかく、どちらかにはあるんですね。後ろにまとめて書いてある教科書か、目次の後に、分野別に教材が並べてあるという、目次の順番ではなくて。

山口委員 生徒がそんなに最初は興味を持たないだろうとは思いますが、自分が何を学んでいるのかということの示唆にはなりますよね。先生と生徒の間で。これがそういうふうに直ったというのは良かったなと思います。

調査員代表 正直な話、それがないと授業のたびにプリントを配るのですけれど。

山口委員 自由な、誘導されたものではない、自由なものになったというのは、クラスの生徒に合わせて設定ができて。結局、生徒の気持ちをそのように変えていくではないですけど、学んでいくということなので。

調査員代表 今使っているものは、一部分、発問が書いてありますので、担任をしている調査員も何名かおりましたので、自分のクラスは、今、こことは違うよねと、でも書いてあるしなという点で困ったという話はずいぶんしていましたので、今回は、それはもうクリアされたのかなという考えます。

山口委員 なるべく、正直に書いてもらうようにしたいし、そこで、人との違いを感じ取ってもらいたいし、というところですね。

調査員代表 しかし、書くことが苦手な子には、振り返りは丸をするだけでよいという欄もありますので。そんな配慮も一応ありますので。

西口委員 どうしても、その2番のキャリア教育が、あとは全部納得なんですよ。これは、ここで分かるのですけれど、キャリア教育のこの記述がどこで3年間の系統性・発展性を持たせているのかがどこで分かるのですか。例えば、1年生では新しい自分と出会う、話し合うというあたりが、すっと落ちないもので、いいかなと思って。そこだけ、私、気になりました。

山口委員 そもそもキャリア教育と道徳をどう結び付けるかということがあって。キャリア教育をどう定義するかということがあると思うのですよ。社会を生き抜く力とか、道徳の教科書をどう捉えるのかということですね。それを1年生、2年生、3年生と、どうつながっているかということなんです。

西口委員 ここが難しい。

教育長 キャリア教育でいうと、中学校3年生の16ページ、「あるレジ打ちの女性の話」、これが大好きなんです。これは、仕事への向き合い方とかが書いてあるのですよね。

調査員代表 一応、ここには説明してもらってあるんですよ。

西口委員　これが言葉だろうなとさっきからずっと見ているんです。

調査員代表　この教材だけでという感じではなくて、例えば1年生だったら、1学期の全ての教材で、夢に向かう心とか、自分らしさとか、人との前向きな関わり方というのをテーマに教材が選ばれているということなんです。そして、2学期は、学校生活だけとは違って、地域社会等で充実した集団生活を送るという大きな枠。そして、3学期は、より広い視野を持って次の学年の内容につながるというような、大きな枠でこれとこれとこれという、そういうイメージではないという感じなんですけれど。

西口委員　テーマを設定しと、言われたのが、ぱっと教科書を見て、テーマとはどれと思ったのですよ。3年間の学習の系統性と発展性ということが、ちょっと教科書だけ見ていると分からなかったの。お話はすごくよく分かるのですが。

調査員代表　2年生は職場体験や、先ほど言った生徒会活動等も入っていますし、3年生は部活動を引退した後の生活をどうするかであるとか、主権者教育に関わるような「サトシの一票」という教材があるのですが、総合的な感じで見えていくというように、いじめのように、ピンポイントで、これとこれとこれみたいな感じよりはちょっと緩いかなと、そういう気はしているのですが。

山口委員　なるほど。全ての教科がキャリア教育につながっていると文部科学省は言っておりますので。算数も国語も理科もすべてが。むしろ道徳がこういった形で、キャリア教育とつながっているということは、教育の本質のような気がする。1つではなく。ありがとうございました。

調査員代表　はい。ありがとうございました。

学校教育部長　各者との比較なのですが、「明日を生きる」の日文のところ、今、話題になっているキャリア教育はどれに当てはまるのでしょうか。いじめのことなら、先ほど言われたような内容のことがあるのですが、キャリア教育のあたりが、もしあるのならそのあたりを説明していただきますと。他との差が出るのですが。

調査員代表　正直、ここの調査項目だけではちょっと書きにくいというのが正直。

学校教育部長 ここには無いですね。

調査員代表 無いです。

教育長 選定案の2番のことを言っているのですか。

西口委員 私が問題提起をしたのは、そうです。そういうことです。

教育長 選定案の2番は、さっきも言ったように、表紙に書かれているこれと結び付けられたのですよね。

調査員代表 それもあります。はい。

教育長 「であう」「みつめる」「ひらく」とつなげての話ですよ。

西口委員 それですか。

調査員代表 はい。教科書のスタートがそうなので。

教育長 そこからスタートしているので、説明は別にそれで。それが最初にあつて。そのテーマは1年生だったら、「であう」というふうになって、そこからずっとこれが展開しているということで書かれていると思っているのですが、それでいいですか。ただ、キャリア教育の視点からと言われるというだけですけれども。でも、山口委員が言われたように、いろんなことが書かれ、つながっていると思うのですが。それが何か問題というわけでは。

調査員代表 理念をもとにぐらいですか。言葉を変えるとすれば。一緒のことですよ。

教育長 そうですね。

西口委員 「あすへのメッセージ」に、「教材に登場する人物の言葉から、生き方について考えを深めるためのコラムです。」と書いてあるのですが、これが至る所に、入っていますよね、目次の中に。こういうことも含めて、自分の生き方を考えていくための教材が、配置されているという感じかなと自分なりに考え

たのですけれども。何か、あまりにも、目立ちすぎて、これだけが、ちょっと気になっただけです。大丈夫、採択には関わらないですし。

調査員代表 正直、相談している時は、もっとパツパツに広げて、いっぱい書いてあったのです。精選していて、今の形になりました。

西口委員 はい。すみませんでした。

教育長 よろしいですか。

委員 はい。

教育長 調査員代表、ありがとうございました。それでは、教科書採択について御意見をお願いします。「道徳ノート」も今回は自由な記述になっているし、使いやすいですという話ですね。

学校教育部長 先ほどの、西口委員の言われたキャリア教育のことなのですが、キャリアの視点からテーマを設定してと、ありますよね、ここに。それはどこから持ってこられたのですかね。

西口委員 私は参考資料から持ってこられたと思っているんですよ、教科書会社の。

学校教育部長 ああ。テーマとはどこにも書いていないなと思ひまして。見ていらっしやいましたものね。

西口委員 そうそう、教科書会社の。だから、出てきていないのですよ。こういう文言がどこかにあるのなら、納得できるのですが。例えば、ここにキャリア教育の視点から明日を学ぶというコラムがあれば。

学校教育部長 書き方が、例えば「であう」「みつめる」「ひらく」というテーマに、キャリア教育に沿ったものになるとなっていたらよかったですけれども。視点からテーマを設定し、とはどこにあるのだろうと。

西口委員 教科書会社の資料を引用したのかと思ってしまったのです。

教育長 テーマを設定し、か。

学校教育部長 ここは、ちょっと変えてもらった方が。どこを見てもそれが分からないので。

西口委員 そうそう、そうなんです。系統性・発展性を持たせていくまで書いてあったので。

山口委員 見ていらっしゃった資料をちょっと見せてもらったならよかったですね。

西口委員 あれは日文の会社が出している資料です。

教育長 テーマというのは、例えば、いじめ、情報社会、自立と共生、環境と未来、安全な生活。これはSDGsに関わった、これがテーマなのではないの。キャリア教育の視点。

学校教育部長 キャリア教育の視点からテーマを設定し、と書いてあったので、どこに書いてあるのだろうと。

教育長 いや、テーマはこれですよ。

学校教育部長 テーマは、例えば、「みつめる」というのは一貫してあるのですが、キャリア教育が括弧してテーマのように書いてあるわけではない。

教育長 要は、日文のテーマというのは、どの学年もこの5つなんですよ。いじめ、情報社会、自立と共生、環境と未来、安全な生活。これのことではないのですか。

西口委員 私はむしろ、「あすへのメッセージ」のマークがついているところを読んでいけば、生き方を考えていけるようになっていっていきような気がして。なので、どこから、この文言を。

教育長 「テーマ、みんなで考え合いたい内容をして、次のようなテーマを設定しています。」と書いてあるので。

西口委員 そうしたら、いじめもあるし、情報社会もあるし。キャリア教育だけではないですよ。

教育長 キャリア教育に対する捉えではないのですか。どう捉えるかではないかな。すごく幅広く、大きく捉えたらキャリアは、人生すべてのこと、すべてを含めたらいろんなものがキャリア教育と言えますよね、仕事だけではなくて。

西口委員 せめて、1年生ではの「新しい自分」の鍵括弧を取るかね。

学校教育部長 このテーマが掲げられているような感じがするのですよ。

西口委員 そういう感じがするのですよ。

教育長 ここに書いてあるから、そうかなと思って。それだったら、テーマはこれしかないですよ。これは、もうどの学年も統一していて、巻頭にそれぞれ「であう」「みつめる」「ひらく」というものが書いてあって。

西口委員 新しい自分と出会うとは、どこから拾ってきたのですかね。

教育長 新しい自分。

西口委員 人との関係を、というのなら。

教育長 新しい自分とは書いていないですね。

西口委員 そう。

教育長 「であう」の所。「あなたには、いろいろな出会いがあるだろう。新しい生活。新しい仲間。そして、新しい自分。」、中学生になった。そこに新しい生活。新しい仲間。そして、新しい自分。その新しい出会いの中で・・・、そう、だから、つながるのですよ、ここから。ただ、よく見ないと分からない。人の関係、それは無いですね。「できることやつながりが増え、自分の世界が広がってくる。」か。人との関係。あとから説明するなら、そうするかなという話ですが。

西口委員 あまりにもこれが、このままでは、良くない。ここを書き換えるとか。

学校教育部長 テーマを設定し、と書かなくて、1年生、2年生、3年生ではこうで、3年間の系統性・発展性をもたせているぐらいの。テーマを設定しを、ぬいたらよいと思います。

西口委員 その視点からも構成されているということでいいのではないですか。それでいいのではないですか。気になるだけで。それだけです。これは、このままでは出ていきませんよね。

学校教育部長 このままでは出ていきません。

教育長 よろしいか。

委員 はい。

教育長 それでは、日本文教出版の「あすを生きる」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員 はい。

教育長 それでは、津市教育委員会として、日本文教出版の「あすを生きる」を令和7年度使用中学校用の教科書として採択することに決定をいたします。これで、議案第36号の審議を終了します。2日間にわたり、御審議いただきましてありがとうございました。

一同 ありがとうございました。